

四中だより

No. 3

令和3年(2021年)7月20日
枚方市立第四中学校
校長 鶴島 茂樹

< 1学期終了そして2学期のスタートに向けて >

今日で、1学期が終わりました。相変わらずコロナ禍は終息せず、皆さんも様々な制約のなかで、それでもよくがんばったと思います。

幸い、昨年度のような長い期間の休校や分散登校等もなく、無事1学期を終えることが出来ました。そして、何より、昨年度はたった10日程度しかなかった夏休みが、例年通りの期間となりました。皆さんにとっては、うれしいことだろうと思います。

ただ、3年生の修学旅行や、1、2年生の校外学習は2学期に延期となりました。また全校生徒が顔を合わせての生徒集会や水泳の授業も実施することが出来ませんでした。部活動も長い間、制限せざるを得ませんでした。

しかし、皆さんはそのようななかでも、生徒会役員を中心にリモートによる生徒総会を立派にやり遂げ、現在、2学期の四中オリンピックに向けてクラス、ブロックで着々と取り組んでいます。3年生はさらに並行して修学旅行の準備も急がなくてはなりません。

忙しい・・・けれど充実した濃い毎日がこれからも待っています。そしてその忙しい毎日の土台となるのは「クラス」です。年度当初自分たちで決めた「学級目標」を今一度振り返ってみてください。そこへ向けて本当にみんなで前進しているのか・・・？しっかりと問い直してみてください。とりわけ3年生は、いつも言うことですが、義務教育9年間の最後のクラスです。義務教育の総仕上げなんです。ぜひ最高のクラスを創り上げてください。

もちろん3年生には、「進路」という大きな課題があります。将来の生き方、どんな大人になろうとするのか、職業は？、そして具体的な進路先は・・・等々、これから一人ひとり考えていかなければなりません。「受験」への不安も含めて、心配や悩みも多々あるかもしれません。

だからこそ、「クラス」が大切なのです。自分だけではなく、みんながそれぞれ進路の希望や悩みや期待や不安を抱えながら、共に過ごしているのです。一人で抱え込んで考えるのではなく、クラスの仲間と一緒に考え合う、相談し合う・・・「進路先」は違っても、そこへ向けて努力するのは同じなのです。

「進路」も含めて、何でも本音で語り合える・・・そんな本当の信頼関係があるクラスを創り上げていきましょう！一人ひとりの意志の力で。

< 部活動 奮闘中 >

○女子バスケットボール部 北河内大会優勝→大阪大会に進出

○サッカー部 北河内大会優勝→大阪中央大会に進出 1回戦突破

○卓球部 北河内大会 女子団体 3位

細谷 薫月(3年)枚方大会 女子3年の部優勝

門 芽那(2年)枚方大会 女子2年の部優勝

○バドミントン部 枚方大会 男子団体3位

大山 樂(3年) 枚方大会個人の部優勝

○男子ソフトテニス部 枚方大会団体の部 準優勝

○剣道部 枚方大会 女子団体3位

斎藤 陽愛(3年)枚方大会女子の部 準優勝

中村 遼人(3年)枚方大会男子の部 3位

○陸上部 西岡 尚輝(3年)全日本通信陸上大阪大会 男子100m4位

北河内大会 男子100m優勝

枚方大会 男子100m2位

大崎 春菜(3年)北河内大会 女子100m3位

枚方大会 女子100m2位

小川 優里(2年)北河内大会 女子走り幅跳2位

成田 煌河(2年)北河内大会 男子砲丸投3位

枚方大会 男子砲丸投1位

片岡 美琴(2年)枚方大会 女子200m2位

○演劇部 竹井 乙葉(2年)NHK杯放送コンテスト大阪決勝大会出場

☆硬式テニス 木下 晴結(3年)近畿大会優勝

みんな、よく頑張ったと思います。もちろん、結果がすべてではありません。目標に向けて努力することに価値があります。夏休みもがんばりましょう

*** 2学期始業式は、8月25日(水)です。みんな元気で集まりましょう!!**

< 保護者の皆様へ >

コロナ禍のなか、何とか無事に1学期を終えることが出来ました。これもひとえに子どもたちの頑張り、保護者の皆様のご支援の賜物だと感謝しております。ありがとうございました。今後とも、本校教育にご理解、ご協力賜りますよう、お願いいたします。
(裏面あり)

染谷西郷さん トーク&ライブより

先日、母親が南アフリカ人で父親が日本人である染谷西郷さんを招いて、各学年別にトーク&ライブを鑑賞しました。自らの生い立ちを語ることを通じて、人種等による差別の問題と自身の生き方についてお話をいただきました。

先生たちも感動し深く考えさせられました。私が最も印象に残っているのは、「みんなに(自分を支えてくれた)「ミヤタ」くんになってほしい」という言葉でした。

みなさんの感想から一部を紹介します。

人権について考えることは今までも何度もあったけど、むずかしいなと思っていて、今回、染谷さんのライブ・トークを聞いて実際にどんなことがあったのかを聞かせてもらって、身近に感じる事ができてよかったなと思いました。

自分も中国と日本のハーフだけど、差別されたりいじめられたりしたことはないから、自分は恵まれた環境に育っているんだなと思いました。

自分の大切な人が苦しんでいたり悩んでいたときに、一緒になってどうすればいいか考えたりはげましたり、心の支えになれるような人になりたいと思います。染谷さん、ありがとうございました。曲も聴いてみようと思います。

人が人を差別することの醜さや悲しさがよく感じられました。実際に差別を受けた人の話だからこそ、とても心に響きました。はだの色だけで差別するのはおかしいのにそれをしてしまうのは駄目だってわかっているのに、やってしまう。でも、そんな人にも手をさしのべられる人間になりたいと感じました。

外国人と日本人の間を壊して、人種が違って肩を組み合わせるような曲を創れる染谷さんがとてもカッコいいなと感じました。自分も外国人の同級生がいると、「自分とは違う」と思い込んでしまうので、その「違い」を自分でも壊して皆で手を取り合えるようになりたいなと思います。

自分も音楽が好きで昔から歌を聴いたりギターを弾いたりするので、染谷さんはカッコいいなと思いました。

黒人と白人だけでなく全ての人が肩を組み合わせる世界にしたいです。まずは自分出来る努力をして、少しずつ少しずつ頑張るって世界を変えたいと思いました。たとえ自分がその中心になれなくても、その中のたった一人でも頑張ってみようと思いました。

すごいな！と思いました。ハーフという理由で差別や偏見からいじめられていたという過去があったのに、皆つながろうよ、という前向きな思いで人々に勇気を与えていて。染谷さんだけでなく(南アフリカの)黒人の人々が「やられたらやりかえそう！」じゃなくて「こんなに辛い思いをしたんだから、こんな思いをする人をなくそう、皆でつながろう」という思いがあって、すごいのかなんというか・・・。

染谷さんのお話に出てきた「みやたさん」。「みやたさん」の「外国人だからって関係ない」という考えが染谷さんを救ってきたんだなと思います。私もどうすればいいかわかんなくて辛いとき友達が本当に支えてくれた。私も辛い人を救う側、支える側になりたいです。

昔にはいろいろな差別問題があって、今でも差別は続いている。でも、染谷さんのように音楽に出会って「自分の居場所は絶対どこかにある。」って思って気が楽になる人は今でもたくさんいると思う。音楽にはいろいろな力があることをあらためて知った。

今でも差別は続いている。でも「仲間外れはいやだ」、「逆に自分がやられる」とかで差別する方に行ってしまったら、それは自分で差別を増やしてしまうことになる。逆に差別をなくそうとしている方に行くのも少し勇気がある。でも、その少しの勇気で、差別をしている方が少なくなるかもしれない。

「差別はだめ」「勇気をふりしぼれる力が人にはある」そんなことがこの時間でわかった。未来では差別がなくなっているか逆に増えているか、それは誰も知らない。でも、「なくそう」と思って行動すれば、それが未来につながるかもしれない。

僕もこれからはもっと周りに目を向けようと思う。この時間は、僕にとっても皆にとってもすごくいい時間になったと思う。